

# 南の躍動

奄美のよさを生かした活力ある教育の充実



シーカヤックマラソン(瀬戸内町)

第3号

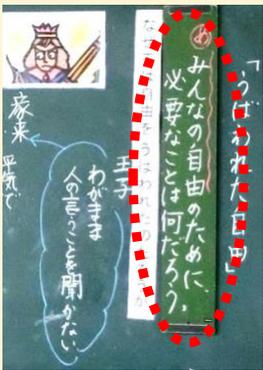
平成29年8月30日  
大島教育事務所

## 「特別の教科 道徳」に向けた授業改善を!

「特別の教科 道徳」では、子どもたちがよりよく生きるために、答えが一つではない道徳的な課題を自分のこととして捉え、それに向き合いながら考え、判断し、行動・実践できる資質・能力を育む授業が求められます。大島地区では下のテーマを柱とし、これまでの道徳の授業を見直し、本号ではどんなことに留意し授業を展開すべきか、地区道徳教育研修会で授業を提供して下さった与論町立茶花小学校と喜界町立喜界中学校の実践例を交えながらポイントを示します。

### ～ 子どもたちが考え、議論する道徳の授業づくり ～

#### 1 問題意識をもたせる導入の工夫



これまでの道徳の授業の反省として、読み物教材のあらすじの理解が中心となるようなめあてになっていたり、道徳的価値の理解に偏りがちだったりする授業が見られたことが挙げられます。道徳の授業を通して、道徳性を育むために、次のような視点を取り入れた導入を工夫しながら、今後更に充実させていく必要があります。

- 経験や具体的事例から道徳的価値を考えさせているか。  
(例)「相手に親切にできたことがありますか。そのときどんな気持ちでしたか。」  
→ 自分たちの問題意識を明確にする。
- 道徳的価値の意味や意義について考えさせているか。  
(例)「あなたにとって、友情とは何ですか。」  
→ 道徳的価値の一般的な認識を確認する。

与論町立茶花小学校の授業では、「自由って何ですか。」と聞いて考えを話し合った後、子どもが道徳的価値の意義を考えていけるようなめあてを設定しました。

#### 2 ねらいに迫る発問の工夫



道徳的な問題を解決するためには、登場人物の心情を理解するだけでなく、問題場面を把握し、子どもの生活経験や現実社会と結び付け、具体的な解決策を考えさせることも重要です。

発問は、子どもが主体的に考えていく上で大切な働きかけの一つです。問題場面について子ども自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問等を行うことによって、考え議論する道徳につながるようになります。

喜界町立喜界中学校では、読み物教材について学び合った後、「自分だったらどう回答しますか。」(自分に当てはめて考える発問)と尋ね、自分なりの解決策を見出させ、その後、どの解決策がよりよいかグループで比較検討していきました。

小学校は来年度から、中学校では平成31年度から「特別の教科 道徳」になります。そこで、各学校では次のような取組をしていくことが重要になります。

- 次期学習指導要領の目標や内容の研究
- 各学校の重点内容項目の明確化
- 道徳教育全体計画や別業の見直しや改善
- 指導計画の作成
- 「特別な教科 道徳」に向けた授業研究
- 評価についての研究

道徳教育推進教諭を中心に、組織的・計画的によりよい道徳教育を目指し、取り組んでいきましょう。



学力向上に向けて「質の高い授業」づくりに取り組んでいる学校の紹介第2弾は、徳之島町立母間小学校です。テレビ会議システムを使った遠隔合同授業のよさはもちろんですが、3校の先生方が協力し合って指導法改善を図る姿勢など、学校間の連携した取組を参考にしてください。

**1 近隣の学校との遠隔合同授業による指導力向上**

母間小と花徳小・山小の3校は、複式学級における指導法改善を目的に、平成27年度から文部科学省 ICT 活用実証事業を受け、テレビ会議システムを使った遠隔合同授業を行っています。そのため、3校合同で校時表や学習の約束、発表話型などを揃えて指導したり、遠足や修学旅行などを一緒に行って子ども同士が直接ふれあう学習を進めたりするなどして、よりスムーズに効果的に遠隔合同授業が進められるように工夫しています。

それぞれの担任は、授業開始までに略案を作成し、指導の流れや交流のタイミングを確認し合い、子どもの情報交換などを行います。担任により、指導観や指導方法に違いはあるものの、意見を述べ合って、一つの授業を作り上げることで、担任それぞれの考えのよさに気づき、指導力の向上に大きくつながっています。

また、遠隔合同授業を行うときはできるだけ多くの職員が授業参観し、いろいろな立場から多くの意見が出るようにし、次回の遠隔合同授業で生かしています。



合同授業の様子

**2 テレビ会議システムを使った授業研究**

平成30年度2月の研究公開に向けて、今年度は7回の合同研修会を行っています。一同に集まる機会もありますが、テレビ会議を使って時間を有効に使った研修を行っています。それぞれの実践推進上の成果や課題を出し合い、より効果的な指導法を模索しています。



テレビ会議システムを使った授業研究

**大島の食材を使った郷土料理を学ぶ！**

＝平成29年度大島地区栄養教諭研修会(7/5)＝

今年度の研修会では、地場産物を活用した学校給食を「生きた教材」として指導に生かすために、大島地区の食材を使った「島うりの酢みそ和え」「くじらもち」などの郷土料理の調理実習をしました。



調理実習の様子



郷土料理「島うりの酢みそ和え」

参加された栄養教諭の皆さんから、「食材や調理方法、盛り付けなどに意味があり、先人の知恵と思いが伝わってくる。学校給食を通して、子どもたちに伝えていきたい。」などの感想がありました。日頃の献立作成に大いに参考になりました。

※ 「イუნシル(魚の味噌汁)」「島うりの酢みそ和え」「くじらもち」「チキンDEたんかん煮」「黒米ごはん」の詳しいレシピは大島教育事務所のHPに掲載しています。 [大島教育事務所](#) [検索](#) ぜひ、ご覧ください。

**Let's Study English!**

＝英語教員スキルアッププロジェクト(8/8,9)＝

大島地区の英語教育担当者の指導力向上を目指して、地区英語教育推進リーダーの押川真紀教諭(瀬戸内町立阿木名中学校)と、宮元秀樹教諭(始良市立柁城小学校)を講師に迎え研修を行いました。2日間、演習やペア学習を通して、次のような内容を学びました。

- 子どもが英語を使う楽しさを感じる要素について
  - ・ インフォメーションギャップ、根拠、動機、適度なレベル
  - ・ 他教科との関連を図った内容重視の学習(例:場所を表す英語を学ぶ際、体の臓器を使って学習させる。“Where is the stomach? It's next to the liver.”)
- クラブルームイングリッシュの効果的な活用法について
  - ・ 意味の理解を助けるようなジェスチャーの使い方
  - ・ 教室英語を使用する利点の認識の向上(記憶に残りやすい、自信が付く など)
- A L Tと円滑に授業案の打ち合わせをするためのスキルについて
  - ・ 提案を受け入れる、変更する、断るための表現 (“That's nice idea, but…” など)
  - ・ 提案を断るときの理由の説明方法の実習



動作化を用いた文字指導を体験する様子



発話の仕方を学び合う様子

**シマッチュ中高生リーダー 奄美のよさを再発見!**

＝大島地区ジュニア・リーダー研修会(7/26)＝

今年度も県立奄美少年自然の家を主会場に、中高生26人が参加して、2泊3日で開催されました。天候にも恵まれ、計画していたプログラムも予定通りに全て実施することができました。

「広報の仕方」の研修では、「シマッチュ(島民)中高生にしかつけれないガイドブックをつくらう」と題し、奄美大島の情報誌「しまブログ」代表者を講師に迎え、ワークショップ形式で情報発信の仕方について学びました。

グループごとに「食」や「文化芸能」、「自然」、「行事」などテーマについて話し合い、お互い発表しました。市販されているガイドブックにはない中高生ならではの情報が次々に飛び出し、講師の方も感心されていました。

子どもたちは、これらの研修を通して自分の住む地域のよさを再発見するとともに、中高生ならではの視点を生かしてまちづくりに参画することの大切さを学んだ3日間でした。



ガイドブックづくりの説明を聞く様子



グループごとの話し合いの様子